

1 自己評価

1 評価結果 (別紙参照)

2 分析・改善方策

(1) 確かな学力の育成

- ・「授業は分かりやすい」と肯定的な回答をした児童は 83%，保護者は 95%なので、概ね当初の目標は達成しているが、授業が難しいと感じている児童も若干いることが分かった。
- ・目標家庭学習時間は(学年×10+10)分。児童の 61%，保護者の 72%ができており、家庭学習の時間の確保については改善していく必要がある。
- ・授業改善に取り組むために、今後も校内研究を通して教員の指導力向上を図る。
- ・学習に困難を感じている児童については、どの部分に不安を感じているのか分析し、授業を改善したり個別に支援したりする。
- ・宿題の出し方や自主学習のあり方を見直し、家庭学習の時間の確保を図る。

(2) 健やかな体づくりの推進

- ・業間運動は『がんばりカード』を使って意欲の向上を図ったが、「外でいろいろな遊びをするようにしている」と答えた児童は 65%で目標数値を下回った。
- ・体力テストのいくつかの項目については向上が見られた。
- ・自由遊びでは、遊びが固定化されており、魅力ある遊びが提案されてない。
- ・生活振り返りカードの達成率は 8 割以上の児童が 60%と低く、特に高学年に低い傾向がみられる。就寝時刻が遅いことが問題である。
- ・業間運動では、体力テストの結果を勘案しながら、新たな運動を提案・実行していく。
- ・今後も、生活振り返りカードを使っての取組を進めるとともに保護者への啓発を図ったり、個別に声掛けをしたりしていく。

(3) 心の教育の充実

- ・「あいさつがよくできる」「友達の気持ちを考えて行動している」「学校に行くのが楽しい」と回答した児童・保護者・教職員が多い。
- ・月目標の周知を、道徳の時間や日常の生活で、より徹底していく。
- ・教育相談を充実させ、温かい雰囲気作りに努める。

(4) 地域を生かした教育の推進

- ・「地域の人との交流が楽しい」という肯定的な回答は児童が 91%であった。様々な交流活動の中で地域の人から多大な支援をいただいているので、今後も継続していきたい。

(5) 幼小中一貫教育の推進

- ・五つ星学園では、多様な学びの場を提供することができている。「中学校区で連携してよかった」という回答は、児童 87%，保護者・教職員とも 100%で目標数値をほぼ達成することができた。成果と課題を明らかにして、今後の取組に生かしていきたい。

2 学校関係者評価

- ・横山三恵子(婦人会長) ・難波 哲夫(公民館水内分館長) ・時光 実(元総社市職員)
- ・山本 哲朗(元教員) ・石井 光嘉(保護司)
- ・岡本 真理(放課後子ども教室代表) ・川端 順二(P T A 会長)

3 学校関係者評価

- ① 確かな学力の育成に向けての取組は十分できていると思われる。「分かりやすい授業」にも心掛けていただきたいが、時には苦労しながら学ぶ経験も必要である。
- ② 健やかな体づくりの推進については、特に就寝時刻を早くとかテレビ視聴やゲームの時間を短くといった点については、家庭の問題であるため、外部講師を招いての講演会を実施するなど、保護者への呼び掛けを工夫できると良い。
- ③ 心の教育の充実は、品格教育の取組が十分できていると思うので、継続・発展させていってほしい。
- ④ 地域を生かした教育や幼小中一貫教育の推進は維新の子どもたちにとって大事な取組なのでこれからも続けて頑張ってほしい。

4 来年度の重点取組 (学校評価を踏まえた今後の方向性)

1 確かな学力の育成

- ◎授業力向上…校内研究の充実(英語科)による表現力の育成
- ◎家庭学習の定着(小中一貫した系統性のある取組)

2 健やかな体づくりの推進

- ◎業間遊び・業間運動の充実
- ◎基本的な生活習慣の確立(幼小中での連携した取組)

3 心の教育の充実

- ◎品格教育の継続・推進

4 地域を生かした教育の推進

- ◎地域を生かした生活科、総合的な学習の計画・実践

5 幼小中一貫教育の推進

- ◎幼小中で連携した事業推進